

# 文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
文化人類学概論	アメリカ人類学における 文化進化主義(1)	2	沼崎 一郎	3	水	2	1
文化人類学概論	アメリカ人類学における 文化進化主義(2)	2	沼崎 一郎	4	水	2	2
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	杉本 敦	3	火	2	3
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	川口 幸大	4	火	3	4
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	月	4	5
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	4	月	4	6
文化人類学各論	災害人類学	2	ボレー・ベンメレン・セバスチャン(交渉中)	6	金	3	7
文化人類学各論	東南アジアの文化人類 学	2	片岡 樹	集中(5)			8
文化人類学各論	中東イスラーム人類学	2	相島 葉月	集中(5)			9
文化人類学演習	比較文化研究法	2	沼崎 一郎	5	火	3	10
文化人類学演習	文化人類学研究計画 法	2	沼崎 一郎	6	火	3	11
文化人類学演習	英語古典原書講読	2	沼崎 一郎	6	木	2	12
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	5	水	3・4	13
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	6	水	3・4	14

**科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)**

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB33203, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

アメリカ人類学における文化進化主義（1）

**2. Course Title (授業題目)：**

Cultural Evolutionism in American Anthropology (1)

**3. 授業の目的と概要：**

アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、ルイス・ヘンリー・モルガン、レズリー・ホワイト、エルマン・サービスを中心に、19世紀から20世紀前半の流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通じた学びの方法というものを身に付けてほしい。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- (2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- (3) 論述試験に慣れる

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 授業方法の説明
2. 背景1 18～19世紀の文明思想
3. 背景2 19～20世紀の進化思想
4. 背景3 19～20世紀のアメリカ社会史
5. 背景4 19～20世紀のアメリカ民族学・人類学
6. ルイス・ヘンリー・モルガン：人と業績
7. 『古代社会』における文明思想と進化思想
8. レズリー・ホワイト：人と業績
9. 『文化の科学』および『文化の進化』における文化観、文明観と進化思想
10. 『現代資本主義文化』における資本主義論
11. エルマン・サービス：人と業績
12. 『進化と文化』における文化観と進化思想
13. 『国歌と文明の起源』における文明観と進化思想
14. 古典的文化進化論から新文化進化論へ
15. 総括と学期末試験

**6. 成績評価方法：**

講義ノート提出（50％）

論述試験（50％）

**7. 教科書および参考書：**

弓削尚子『啓蒙の世紀と文明観』世界史リブレット

江上生子『ダーウィン』清水書院

**8. 授業時間外学習：**

- (1) 教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る
- (2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

**9. その他：**なし授業中に、電子辞書、ノートPC（タブレット）等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

アメリカ人類学における文化進化主義（2）

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Evolutionism in American Anthropology (2)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今semesterは、ジュリアン・スチュアート、シドニー・ミンツ、エリック・ウルフを中心に、20世紀前半から後半への流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通じた学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. 学習の到達目標：

- (1) 学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- (2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- (3) 論述試験に慣れる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. ジュリアン・スチュアート：人と業績
3. プエルトリコ研究の展開
4. 『文化変化の理論』における文化観と進化思想
5. 弟子たちの育成
6. マルクス主義とアメリカ人類学
7. シドニー・ミンツ：人と業績
8. カリブ海地域研究の展開
9. 『甘さと権力』における人類学的ポリティカル・エコノミー論
10. エリック・ウルフ：人と業績
11. 農民研究
12. 『ヨーロッパと歴史亡き人々』における人類学的ポリティカル・エコノミー論
13. 『権力を描く』におけるイデオロギー論と政治論
14. 文化生態学から人類学的ポリティカル・エコノミー論へ
15. 総括と学期末試験

6. 成績評価方法：

講義ノート提出（50％）

論述試験（50％）

7. 教科書および参考書：

川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書

川北稔『世界システム論講義』ちくま学芸文庫

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る
- (2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

9. その他：なし授業中に、電子辞書、ノートPC（タブレット）等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

**科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)**

**曜日・講時：**前期 火曜日 2講時

**セメスター：**3, **単位数：**2

**担当教員：**杉本 敦 (非常勤講師)

**講義コード：**LB32205, **科目ナンバリング：**LHM-CUA202J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

現代人類学入門

**2. Course Title (授業題目)：**

Cultural Anthropology (Introductory Reading)

**3. 授業の目的と概要：**

現代人類学の理論と方法を初学者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。

受講生は、毎回6～7ページ程度予習して授業に臨み、順番に各段落の要約を発表する。そのうえで、内容について討議する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 英文読解力を養う。
- (2) 人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 授業方法の説明
2. 人類学の歴史
3. 文化とは
4. 家族親族
5. 結婚
6. 性
7. 宗教
8. 儀礼
9. 経済
10. エスニシティ
11. 移動とグローバリゼーション
12. 観光
13. フィールドワークと民族誌
14. 人類学と社会
15. 総合討論

**6. 成績評価方法：**

英文要約の口頭発表と授業での討論 (50%)

学期末の要約ノート提出 (50%)

**7. 教科書および参考書：**

授業中に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

毎週、6～7頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討論を踏まえて、要約ノートを修正する。毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。

**9. その他：**なし人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！

**科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)**

**曜日・講時：**後期 火曜日 3講時

**semester：4, 単位数：2**

**担当教員：**川口 幸大 (准教授)

**講義コード：**LB42305, **科目ナンバリング：**LHM-CUA202J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

現代人類学入門

**2. Course Title (授業題目)：**

Cultural Anthropology (Introductory Reading)

**3. 授業の目的と概要：**

前期に引き続き、現代人類学の理論と方法とを初学者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。

受講生は、毎回6～7ページ程度予習して授業に臨み、順番に各段落の要約を発表する。そのうえで、内容について討議する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 英文読解力を養う。
- (2) 人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 授業方法の説明
2. 人類学の歴史
3. 文化とは
4. 家族親族
5. 結婚
6. 性
7. 宗教
8. 儀礼
9. 経済
10. エスニシティ
11. 移動とグローバリゼーション
12. 観光
13. フィールドワークと民族誌
14. 人類学と社会
15. 総合討論

**6. 成績評価方法：**

英文要約の口頭発表と授業での討論 (50%)

学期末の要約ノート提出 (50%)

**7. 教科書および参考書：**

授業中に指示する

**8. 授業時間外学習：**

毎週、6～7頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討論を踏まえて、要約ノートを修正する。毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。

**9. その他：**なし人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB31404, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：

文化人類学には、いくつかの代表的な主題がある (家族、ジェンダー、宗教、経済、移動など)。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各主題に関連した代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の考え方や研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。

4. 学習の到達目標：

基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 文化人類学とは
3. フィールドワーク
4. 家族と親族
5. 宗教
6. ジェンダーとセクシュアリティ
7. 社会関係
8. 植民地主義
9. エスニシティ
10. 移民
11. トランスナショナリズム
12. 多文化共生
13. 観光
14. 経済
15. 人類学の応用

6. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他 (授業時の口頭発表と議論参加) [40%]

7. 教科書および参考書：

上水流久彦ほか編『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂。

他の文献については授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業についての予習ノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB41406, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：

文化人類学には、いくつかの代表的な理論や方法論がある（機能主義、構造主義、ジェンダー論、開発人類学など）。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各理論をもとに書かれた代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の理論と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。

4. 学習の到達目標：

専門文献の講読を通して、文化人類学の理論と研究方法について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 文化人類学の練習問題
3. 文化進化論＋文化伝播主義
4. 文化相対主義
5. 機能主義
6. 構造主義
7. 象徴人類学＋解釈人類学
8. エスニシティ論
9. 環境人類学
10. 医療・身体論
11. ジェンダー論
12. 開発論
13. 観光人類学
14. 多文化主義論
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業についての予習ノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン（交渉中）（非常勤講師）

講義コード：LB65304, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

災害人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：

文化人類学における 21 世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disaster という言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の種類、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. 学習の到達目標：

1. 災害問題について理解を深める。
2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。
3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. コースのイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 映画スクリーン 1: 災害の環境的と文化的の側面
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 被災者のコミュニティの強制変位
- IX. 災害コミュニティの移住と移動
- X. 映画スクリーン 2: 災害対応に携わるグループと各自目指
- XI. 災害に関する宗教団体の理論
- XII. 犠牲者、追悼、メモリアル
- XIII. 映画スクリーン 3: 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. フィナーレ：将来の災害文化人類学

6. 成績評価方法：

出席、コメントとワークショップのレポートを総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書はなし。読書リストを教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

9. その他：なし

**科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)**

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：片岡 樹 (非常勤講師)

講義コード：LB98828, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

東南アジアの文化人類学

**2. Course Title (授業題目)：**

Cultural Anthropology of Southeast Asia

**3. 授業の目的と概要：**

文化人類学というのは、身近な素材を用いて新たな発見を行う学問である。本講義では、我々にとって似て非なる隣人である東南アジアの事例から、文化人類学による異文化理解の可能性を考えるとともに、文化人類学の概念群を用いて東南アジア社会の等身大の理解をめざす。文明の交差点とも言うべき東南アジアは、世界の文化的多様性の見本市であり、ここからは社会組織、民族、宗教、国家などに関し多くのユニークな問題提起がなされてきた。本講義では、そうしたトピックの中から、東南アジア社会の独自性を理解する上で重要な論点を紹介し、あわせてそれらが人類学理論全体に与えたインパクトも検討する。

**4. 学習の到達目標：**

1. 東南アジアを対象とする人類学的研究について、基本的な知識を身につける。
2. 東南アジアの人類学的研究を人類学全体の議論とつなげて考え、自分なりに検討できるようになる。
3. 人類学的アプローチを用いて現代東南アジアの諸問題を考える視座を涵養する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 文明の交差点としての東南アジア
2. 東南アジアの宗教 (仏教)
3. 東南アジアの宗教 (仏教)
4. 東南アジアの宗教 (イスラム教)
5. 東南アジアの宗教 (イスラム教)
6. 東南アジアの宗教 (キリスト教)
7. 東南アジアの宗教 (キリスト教)
8. 東南アジアの民族 (平地社会)
9. 東南アジアの民族 (山地社会)
10. 東南アジアの民族 (華僑社会)
11. 東南アジアの国家 (伝統的国家)
12. 東南アジアの国家 (王権)
13. 東南アジアの国家 (国民統合問題)
14. 東南アジアの国家 (文化人類学から読み解く現代政治)
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

平常点 60%、レポート 40%

平常点は授業時に配布されるリアクションシートへの記入を以て評価にあてる。

レポートは講義最終日に教室内で記入する形式とする。その準備として、下記の課題図書を読んでおくことが望ましい。

**7. 教科書および参考書：**

教科書は特に定めず、授業内容の理解を深める上で有益な文献は授業時に随時紹介する。

参考図書として、宮原暁編『東南アジア地域研究入門 2 社会』（慶應義塾大学出版会）をあげておく。

**8. 授業時間外学習：**

最終日のレポート課題は、受講生が上記参考書を読んでいる前提で課することになるので、あらかじめ目を通し、特に気に入った章を選んでおくこと。

**9. その他：なし**

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：相島 葉月 (非常勤講師)

講義コード：LB98829, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中東イスラーム人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Islam and the Middle East

3. 授業の目的と概要：

社会人類学のアプローチを利用して、中東に住むムスリム（イスラーム教徒）の社会と文化を動的に把握する方法を検討します。一般的に「中東」とはイランから北アフリカの辺りの地域を指しますが、本講座では、エジプトを中心とした現代アラブ諸国の事例を主に取り上げます。歴史学や思想研究が文献資料を利用してデータを収集するのに対し、社会人類学はフィールドワーク中に行ったインタビューや参与観察をもとに議論を組み立てます。人類学は調査地での人々との出会いに重点を置くことから、大衆の視線を意識した学問であるという自負があります。しかし、「百聞は一見にしかず」とは言え、調査地で見たこと、聞いたことを全て記述すれば「活きたイスラーム」の理解につながる訳ではありません。中東やイスラームを扱った民族誌の考察を通じ、異文化理解の面白さや難しさを学びます。

4. 学習の到達目標：

1. 中東諸国の文化と社会の主な特徴を把握する。
2. 中東地域への社会人類学的なアプローチの基本的な理解し、問題点を検討する。
3. 中東とそれ以外の地域のムスリム社会を比較する方法論を検討する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：はじめに—中東・イスラームへの人類学的アプローチ
- 2：中東をめぐるイメージの系譜
- 3：中東の宗教と民族
- 4：イスラームとムスリム
- 5：イスラーム世界の多様性
- 6：スーフィズム
- 8：スンナ派とシーア派
- 7：イスラーム復興とジェンダー
- 9：伝統と近代
- 10：イスラーム主義
- 11：世俗主義
- 12：近代国家とマスメディア
- 13：アラブの春と若者
- 14：グローバル化する中東と「文化」をめぐる政治
- 15：総括

6. 成績評価方法：

リアクションペーパー40% 講義が終わる30分前に、その日に学んだことや気づいたことをA4一枚にまとめ、提出してください。

書評60% イスラームに関する入門書を図書館や書店で探して書評を提出してください。(A4二枚～五枚)

7. 教科書および参考書：

小杉泰、黒田賢治、二つ山達朗編『大学生・社会人のためのイスラーム講座』ナカニシヤ出版  
西尾哲夫「イスラームの語源は『平和』か—中東地域における文化資源の現代的変容と個人空間の再世界化の研究にむけて」『民博通信』163, 2018, pp. 4-9.

8. 授業時間外学習：

イスラームに関する入門書を読んで、書評を作成する。

9. その他：なしイスラームに関する入門書の例

小杉泰『イスラームとは何か—その宗教・社会・文化』講談社現代新書、1994年  
大川玲子『聖典「クルアーン」の思想—イスラームの世界観』講談社現代新書、2004年  
大塚和夫『イスラーム的—世界化時代の中で』講談社学術文庫、2015年  
内藤正典『となりのイスラーム—世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』、ミシマ社、2016年  
椿原敦子・黒田賢治『「サトコとナダ」から考えるイスラーム入門—ムスリムの生活・文化・歴史』星海社新書、2018年

講義予定は諸般の事情により

**科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)**

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB52308, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

比較文化研究法

**2. Course Title (授業題目)：**

Cross-Cultural Analysis

**3. 授業の目的と概要：**

特定の慣習をひとつ選び、その慣習について比較文化的に考察するレポートを作成する。毎回の授業においては、各人がレジュメを準備し、それぞれの研究の進捗状況を報告して、クラス・ディスカッションを行う。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 民族誌資料検索の方法を身につける。
- (2) 文献資料から「民族誌的事実」を抽出する方法を習得する。
- (3) 「民族誌的事実」を文化横断的に比較し、人類学的に概念化するスキルを習得する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究テーマの探索 1 ブレインストーミング
3. 研究テーマの探索 2 研究室所蔵の文献を調べる
4. 研究テーマの決定
5. 比較対象とする文化の探索 1 研究室所蔵の事典類を調べる
6. 比較対象とする文化の探索 2 広く民族誌を探す
7. 比較対象とする文化の決定
8. 文献収集 1 書籍を集める
9. 文献収集 2 論文を集める
10. 比較文化データベースの作成 民族誌的「事実」の収集
11. 比較文化的分析 1 民族誌的「事実」の比較検討
12. 比較文化的分析 2 民族誌的「事実」と人類学的「理論」の対照
13. 研究レポート執筆 1 序論執筆とクラス討論
14. 研究レポート執筆 2 本論執筆とクラス討論
15. 研究レポート執筆 3 結論執筆とクラス討論

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

**6. 成績評価方法：**

レジュメと口頭発表 [50%]

レポート [50%]

**7. 教科書および参考書：**

教科書： 沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

参考書は、教室で適宜指示する。

**8. 授業時間外学習：**

自身の研究に必要な分権の収集と読解、比較文化データベースの作成、研究レポート下書の執筆。

Dropbox を利用し、データベースおよびレポート下書の添削を行う。

**9. その他：**なし 3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

**科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)**

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB62307, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

文化人類学研究計画法

**2. Course Title (授業題目)：**

Research Design in Cultural Anthropology

**3. 授業の目的と概要：**

主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1)文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。
- (2)研究計画の立て方を体得する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究トピックの探索
3. 研究トピックの決定
4. 研究テーマの探索 1 ブレインストーミング
5. 研究テーマの探索 2 研究室の過去の卒業論文の探索
6. 研究テーマの探索 3 学術誌に掲載された論文の探索
7. 研究テーマの探索 4 人類学理論書の探索
8. 研究テーマの決定
9. 研究計画書の作成 1 問題設定の執筆とクラス討論
10. 研究計画書の作成 2 理論的背景の執筆とクラス討論
11. 研究計画書の作成 3 民族誌的背景の執筆とクラス討論
12. 研究計画書の作成 4 研究方法の執筆とクラス討論
13. 口頭発表 1 パワーポイントの作成
14. 口頭発表 2 パワーポイントを用いた発表練習（前半）
15. 口頭発表 3 パワーポイントを用いた発表練習（後半）

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

**6. 成績評価方法：**

出席と授業参加 [25%]  
レジュメと口頭発表 [25%]  
研究計画書 [50%]

**7. 教科書および参考書：**

教科書： 沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

参考書は、授業中に適宜指示する。

**8. 授業時間外学習：**

文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。  
Dropbox を利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。

**9. その他：**なし 3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

**科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)**

**曜日・講時：**後期 木曜日 2講時

**セメスター：**6, **単位数：**2

**担当教員：**沼崎 一郎 (教授)

**講義コード：**LB64212, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

英語古典原書講読

**2. Course Title (授業題目)：**

Classics in Cultural Anthropology

**3. 授業の目的と概要：**

文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版(1938)の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。

今セメスターは、第6章から第8章までを訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版(1965)を用いる。

**4. 学習の到達目標：**

(1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。

(2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業計画

第1回：導入、授業法式の説明

第2回：テキスト訳出 P.99-102

第3回：テキスト訳出 P.103-106

第4回：テキスト訳出 P.106-109

第5回：テキスト訳出 P.110-112

第6回：テキスト訳出 P.113-116

第7回：テキスト訳出 P.117-120

第8回：テキスト訳出 P.121-124

第9回：テキスト訳出 P.125-128

第10回：テキスト訳出 P.129-132

第11回：テキスト訳出 P.132-136

第12回：テキスト訳出 P.137-140

第13回：テキスト訳出 P.141-143

第14回：テキスト訳出 P.144-147

第15回：テキスト訳出 P.148-149

定期試験は実施しない。

**6. 成績評価方法：**

下訳の作成と授業時の訳文の修正作業への参加(50%)、訳注の作成(50%)による。

**7. 教科書および参考書：**

Franz Boas, *The Mind of Primitive Man*, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.

**8. 授業時間外学習：**

毎週、2頁ほどの英文の下訳を作成する。

授業での議論に基づいて、下訳を修正する。

訳注作成のための資料収集と分析を行う。

**9. その他：**なし Prepare translations for 2 pages of the text each week.

Participate in classroom discussion on translations.

Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.

**科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)**

**曜日・講時：**前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**川口 幸大 (准教授)

**講義コード：**LB53314, **科目ナンバリング：**LHM-CUA303J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

フィールドワーク実習

**2. Course Title (授業題目)：**

Fieldwork

**3. 授業の目的と概要：**

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画の立案をはかる。

**4. 学習の到達目標：**

文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 過去の実習テーマの検討
4. 調査対象の検討
5. 調査対象の決定
6. フィールドワークの報告と討論①
7. フィールドワークの報告と討論②
8. フィールドワークの報告と討論③
9. フィールドワークの報告と討論④
10. フィールドワークの報告と討論⑤
11. フィールドワークの報告と討論⑥
12. フィールドワークの報告と討論⑦
13. フィールドワークの成果発表①
14. フィールドワークの成果発表②
15. フィールドワークの成果発表③

**6. 成績評価方法：**

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]

**7. 教科書および参考書：**

教室で指示する

**8. 授業時間外学習：**

フィールドワークの遂行とフィールドノートの作成

**9. その他：**なし

**科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)**

**曜日・講時：**後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

**セメスター：**6, **単位数：**2

**担当教員：**川口 幸大 (准教授)

**講義コード：**LB63313, **科目ナンバリング：**LHM-CUA303J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

フィールドワーク実習

**2. Course Title (授業題目)：**

Fieldwork

**3. 授業の目的と概要：**

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

**4. 学習の到達目標：**

文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. テーマと実施計画の再確認
  2. フィールドワークの報告と討論①
  3. フィールドワークの報告と討論②
  4. フィールドワークの報告と討論③
  5. フィールドワークの報告と討論④
  6. フィールドワークの報告と討論⑤
  7. フィールドワークの報告と討論⑥
  8. 理論の検討①
  9. 理論の検討②
  10. 理論の検討③
  11. 報告書の作成に関する説明①
  12. 報告書の作成に関する説明②
  13. 受講者の報告書の検討①
  14. 受講者の報告書の検討②
  15. 受講者の報告書の検討③
- 6. 成績評価方法：**  
出席と平常点 [50%]  
報告書 [50%]
- 7. 教科書および参考書：**  
教室で指示する
- 8. 授業時間外学習：**  
フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成
- 9. その他：**なし